

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076400193		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみ頼田		
所在地	〒820-1111 福岡県飯塚市勢田173番地3	Tel. 0948-92-4623	
自己評価作成日	令和05年10月30日	評価結果確定日	令和5年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel. 093-582-0294	
訪問調査日	令和05年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームほほえみ頼田は、自立支援の一環として「寝たきりにさせない」「自分で立てる」「孤立させない」声掛けとともに「食べる意欲を損なわない」場の雰囲気作りに力を入れている。コロナ前の様に大勢で外出が出来ない現在、季節の移り変わりを感じて頂ける様に四季折々の壁面を皆様と一緒に作成して共同空間に貼っている。また、旬の野菜やフルーツを使って調理に努めている。長年、継続して行っているラジオ体操と午後からの運動にも力を入れている。その日の体調に合わせ休養が必要の方は居室にてゆっくり休んで頂いている。入居者様の笑顔に職員もほほえみ、賑やかなグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

飯塚市郊外の自然に恵まれた環境の中で、新しく建て替えられた介護付有料老人ホーム併設の定員9名のグループホーム「ほほえみ頼田」がある。地域の方の温かな協力の下、盆踊りや運動会等、地域行事にも積極的に出かけ交流を深めている。リビングには床暖房を設置し、障子やクロスにこだわり、ホーム全体を和の雰囲気に設えて、利用者が心地よく暮らせるよう配慮している。協力医療機関による月2回の往診と緊急時の対応、看護師、介護職員の連携で24時間安心の医療体制が整い、看取りの支援にも取り組んでいる。働きやすい職場環境の中で人柄の良い職員が定着し、チームワークを発揮して取り組み、法人内事業所との合同レクリエーションや演劇、映画鑑賞等の個別の外出によって、利用者の笑顔を引き出し、楽しい暮らしの支援に取り組むグループホーム「ほほえみ頼田」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念唱和を欠かさず行い理念に対する意識を高めている。	ホームが目指す介護理念を、玄関の見やすい場所に掲示し、申し送り時に出勤職員で唱和し、職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解している。職員会議の中で常に理念について話し合い、職員は明るい笑顔で利用者と関わり、楽しい暮らしの支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の盆踊りや老人会の運動会に参加していたがコロナ感染が未だ続いていることで現在は自粛している。	コロナ対策以前は、利用者と職員は、地域の盆踊りや老人クラブの運動会、どんど焼きに参加し、地域の一員として交流を深めていた。産業祭りや光が丘学園の学園祭に出かけたり、同一法人のグループホームと合同で行う行事やレクリエーションは、利用者の楽しみとなっていた。新型コロナウイルス「5類」移行に伴い、交流再開を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解し地域の方々への支援方法等、地域の方々に向けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議を3年半ぶりに開催する事が出来た。出された意見はサービス向上に活かしている。	運営推進会議を多くの地域代表、地域包括支援センター職員の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。ホーム運営や取り組み、利用者状況、行事予定の報告を行い、参加委員から、意見や要望、情報提供を受けて話し合い、出された意見はホーム運営や業務改善に反映させている。	日程を調整して、年に1回でも家族が参加出来るよう配慮し、ミニ勉強会の実施や利用者と一緒にレクリエーションを体験してもらう等、内容の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と事業所は連絡をとり協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者は行政窓口にも、ホームの利用状況や事故の報告を行ったり、介護の疑問点や困難事例を相談する等、連携を図っている。コロナ対策以前は、運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、アドバイスや情報提供を受けていた。また、代表が、行方不明者捜索模擬訓練に参加する等、行政と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為の内部研修を行い職員は自分の意見や思いを報告書に書き込み提出している。	身体拘束に関する内部や外部研修を職員が受講し、職員一人ひとりが、身体拘束が利用者にも与える影響を理解している。禁止行為の具体的な事例を、日頃から申し送りや業務の中で気付いた時に話し合い、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束適正化検討委員会を行い虐待を見逃さないように防止を努めている。開催出来ない場合は理由を述べ書面を配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部評価に参加後、内部研修で発表し活用できるようにしている。	権利擁護の外部の研修に参加した職員が、伝達研修を行い、制度についての理解を深めている。また、制度の資料やパンフレットを閲覧できるよう玄関に用意し、必要時には利用者や家族に制度の内容や申請方法を説明し、関係機関に橋渡し出来る体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らない支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には認知症対応型共同生活介護とは何かを十分に理解しその上で説明を行い納得、理解して頂けるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置し、苦情・要望がでた時はミーティングなどで話し合いをしている。	ホームで暮らす日常会話の中から、利用者の意見や要望を聴き取り、家族面会時に、職員が家族とコミュニケーションを取りながら、利用者の健康状態や生活状況を報告し、家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。また、2ヶ月毎に送付するホーム便りで利用者の暮らしぶりを家族に伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一か月に1回職員会議を行い意見や提案を出し合っている。	職員会議をカンファレンスや研修を兼ねて実施し、職員の意見や提案等が活発に出され、職員間で検討してホーム運営や業務改善に反映させている。管理者と職員は、毎日の申し送りや日常業務の中で、気付きや気になる事を話し合い、速やかに解決に向けた取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人間関係や勤務状況に努められている。 代表者が定期的に職員と面談を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては性別・資格・経験に関係なくやる気のある方を採用している。	職員の希望を聴いて、働きやすい勤務体制を整え、職員一人ひとりの特技を活かして、生き生きと働けるように配慮している。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、働く意欲や介護に対する考え等を優先している。人柄の良い職員が集まり職員の離職は少ない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習会に参加し内部研修も行っており人権に対する意識を高く持つよう取り組んでいる。	利用者の人権を守る介護の在り方について、外部の人権学習会に職員が交代で参加し、伝達研修で職員会議の中で話し合い、利用者が不穏で難しい状況の場面での声掛けや、対応の仕方について繰り返し話し合い、利用者のプライドや羞恥心を損なわない対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個別的ケア他の事業所の研修や外部研修参加の推進を行い必要な技術、知識等の勉強会を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と情報交換しながら内部研修等に参加し最新の知識を身につけ資質向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の意向を聞きご本にとってより良いサービスを考え個別的な情報を知り安心して日常生活が送れるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を知った上で今までの生活が継続できるサービスに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の個別的な生活状況に応じて必要としているサービスに努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様が出来る事を増やす等個別的に対応することを心掛け心を込めて聞き取り信頼関係に努める。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者様が安心して生活を送れるようご家族と相談しながら対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	エピソード記憶の改善の為に努めている。	コロナ対策以前は、利用者の知人が訪ねて来たり、病院受診の際に姉妹の家に外泊する等、馴染みの場との関係継続に努めている。同一法人のグループホームと合同でカラオケを楽しみ、レクリエーションを通して行き来する中で、利用者同士の馴染みの関係を築いているが、新型コロナ「5類」移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、馴染みの関係継続に向けた支援に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを通じ入居者様の性格を把握し入居者同士の関係がより良くなるよう努め見守り支援するよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人、ご家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様よりエピソード記憶を開いて今後の生活を知り本人様に合った介護をするよう努めている。	担当職員は、利用者や家族から、利用者の人間関係や生活習慣を聴き取り、利用者の興味や関心事に触れながら、コミュニケーションを取りながら、思いや意向の把握に努めている。自己選択、自己決定が困難な利用者には、家族に相談したり、職員が利用者に寄り添い、その表情や仕草から思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい暮らしをホームの中で本人に合った生活を支援する。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りを徹底し出来る事をして頂く努力をしている。 介助支援が必要な部分は速やかに介助を行うよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り、ミーティング時に課題やケアについて職員間で話し合い介護計画について検討している。	ケアマネージャーは利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で職員間で検討し、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。利用者の重度化や状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事は上司に報告し職員同士で共有している。		
		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ることに対応し支援を行う。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心・安全な暮らしが出来るよう工夫し支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	変化にはいち早く気づき看護師、上司に連絡しかかりつけ医へ連絡して頂く。	入居時に利用者や家族と話し合い、かかりつけ医と協力医療機関を選択してもらっている。現在、全員が協力医療機関医師による月2回の訪問診療を受けている。協力医療機関と毎週訪問の看護師、介護職員の連携で利用者の小さな変化も見逃さず、24時間利用者の健康管理に取り組み安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な対応は出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合はかかりつけ医、看護師より状態を聞き確認している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて医師・ご家族・職員と連携をとり取り組む。	契約時にターミナルケアについて、利用者や家族に説明し承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて今後の方針を確認し、職員全員で共有して、利用者や家族が安心して終末期を過ごせるように支援している。今までに看取りを経験し、職員のスキルアップとチームワークの向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎朝バイタル測定を行い普段の様子と変わらないか常に観察している。 急変や普段と違う場合はすぐにかかりつけ医に連絡し指示を頂いている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などにて職員が対応を出来るようにしている。	非常災害を想定した避難訓練を年2回実施し、通報装置や消火器の使い方を確認し、非常口、避難経路、避難場所を確保して、夜勤者一人で9名の利用者を避難場所に安全に誘導出来るように取り組んでいる。運営推進会議を通して、近隣住民に非常時の協力をお願いしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや尊敬など研修にて日々学習をしている。	利用者一人ひとりのプライバシーを守る介護の在り方を、職員会議や申し送り、日々の業務の中で、言葉遣いや対応も含め話し合っている。また、利用者の個人情報取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と会話をしながら今はこうでありたいなどを聞き個人個人が安心できる対応を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中でその日の状態に応じてその人らしくゆったりと笑顔で過ごせるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気を付け入居者様らしい服など選んでいる。 起床時の整容は特に気を付けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節の物など取り入れ調理し自立されている入居者様にはテーブルを拭いて頂いたり一緒に準備している。	利用者が楽しみにしている食事は、食べたい物を聴きながら献立を決め、職員が手作りの料理を提供し、利用者の状態に合わせて配膳、下膳を手伝ってもらっている。コロナ状況を判断しながら、ホーム内で焼き肉パーティーを楽しむ等、食べる事を楽しめる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人一人に合わせた食事量、バランスを考え食事を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週木曜日は協力医療機関が来られ口腔ケア、マッサージを行ってもらっている。 自分でケア出来る方はしてもらい出来ない方は介助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本トイレで排泄としている。 職員は入居者様一人一人の生活習慣、排泄パターンを把握し早めの声掛けトイレ誘導を行っている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導でトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。夜間も利用者の希望を聞いてトイレ誘導を行い、利用者の自信回復に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者一人一人に合わせ運動や歩行を行い薬を使用せずなるべく自然排便を心掛け食物繊維の多い食材を使用した料理や乳酸菌、オリゴ糖を使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴を行っている。 入居者様の体調に合わせて順番を変更したり声掛けを行っている。 見守り、介助にて入浴して頂いている。	入浴は利用者の希望や体調に合わせて週2回を基本としているが、希望があれば、週3回の支援に取り組む、自立の利用者には、さりげない見守りで対応している。入浴は、利用者と職員が1対1でゆっくり会話が出来る大切な時間と捉え、何でも話し合える関係を築き、入浴が楽しめるよう支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンや個人の体調に合わせて声掛けし支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人服薬は異なりその方の体調により薬が変更、追加になる時がある。 薬の変更、追加などは申し送りを行い共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様に応じて洗濯物たたみやテーブルを拭いてもらうなどの対応をしている。			
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	インフルエンザやコロナなどで外出は出来てないが、室内にて日光浴や運動をしている。	ホームの目の前が公園である立地を生かし、気候の良い時期は散歩を楽しみ、桜の時期には公園にテーブルをセッティングして花見を行っている。コロナ対策以前は、大衆演劇の観賞や野球観戦、映画鑑賞等、利用者の希望を聴いて出かける個別の外出にも力を入れ、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいたが、現在は自粛している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が必要な時は買い物をする。 お金はホームにて預かっている。			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	声を聞きたいなど言われれば電話もするし手紙を送ることもできる。			
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地のよい場所作りをしている。 月に季節の物作りなど行い飾っている。	ホーム内は和を基調として障子やクロス等細部にこだわり、利用者が一日の大半を過ごすリビングルームでは、床暖房を設置し、足元が温かく心地よい共用空間である。季節感のある飾り物や観葉植物、利用者の笑顔の写真を飾り、家庭的で温かな雰囲気のある共用空間である。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルは座る席は決まっている。 ソファでは自分の好きな所へ座られ会話などされている。			
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様とご家族と話しながら使い慣れた物や思い出の物など飾り居心地よく過ごせるようにしている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの家具や身の回りの物、大切な物を持ち込んで設置し、その方らしい住まいとなるよう配慮し、利用者が安心して過ごせるように取り組んでいる。また、小まめに換気や清掃を行い明るくて居心地の良い居室である。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事など考え用具を使ったり状況に応じて対応している。			